

徳島県立文学書道館 文学特別展

児童文学作家

くすのきしげのり の 世界

2019年

8月10日(土)～9月23日(月・祝)

開館時間/9:30～17:00 休館日/月曜(ただし8/12、9/16は開館、9/17は休館)

観覧料/一般 510円(400円) 高校・大学生 350円(280円) 小・中学生 250円(200円)

()内は20人以上の団体割引料金。高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。小・中・高校生は、土・日・祝日・夏休み期間中は無料

会場/徳島県立文学書道館 〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1
☎ 088-625-7485 FAX 088-625-7540 ホームページ <http://www.bungakushodo.jp>



『おこだでませんように』

(石井聖岳・絵 2008年小学館)

主催/徳島県立文学書道館 後援/徳島新聞社、四国放送

協力/あかね書房、アリス館、岩崎書店、えほんの社、偕成社、学研プラス、銀の鈴社、くもん出版、廣済堂あかつき、佼成出版社、講談社、小学館、瑞雲舎、鈴木出版、童心社、東洋館出版社、フレーベル館、文溪堂、星の環会、ポプラ社、光村教育図書、ヤマハミュージックメディア、BL出版、PHP 研究所



漫画『この世界の片隅に』の こうの史代が絵を描いた『あ・そ・ぼ・やで!』(2014年 くもん出版)

なにをやっても怒られてしまう「ぼく」が七夕の短冊にお願いをする『おこだでませんように』、小学校入学の日を描いた『いちねんせいになったから』など、ナイーブな子どもの気持ちに寄り添った絵本。また正直に話すことの大切さを描いた『ふくびき』、いのちの尊さを表現した『あったかいな』、毎日を大切に過ごすことの意味を考える『あなたの一日が世界を変える』、新しい文学のスタイルにチャレンジした『海の見える丘』など、徳島から世界に向けて発信を続けるくすのき作品の世界を紹介します。



楽しい学校のお話『三年一組、春野先生!』(下平けいすけ・絵 2016年 講談社)



鳴門が舞台の『交響曲「第九」歓びよ未来へ!』(古山 拓・絵 2018年 PHP 研究所)

くすのき しげのり

1961年、鳴門市生まれ。小学校教諭、鳴門市立図書館副館長などを経て、現在は絵本や児童文学作品の創作を続け、著書は100冊を超える。2008年に刊行した『おこだでませんように』は青少年読書感想文全国コンクール課題図書に選定され、JBBY賞、ようちえん絵本大賞を受賞。12年刊行の『メガネをかけたら』が同じく課題図書になり、けんぶち絵本の里大賞「びばがらす賞」を受賞するなど、多くの作品が評価され、アジアやヨーロッパでも人気を博している。



関連イベント

講演会「一人ひとりが、みんなたいせつ——作品に託す願い」

● 8月10日(土) 14:00～15:30 *先着200人
講師/くすのき しげのり

読み聞かせ会「くすのき作品ベスト10を読む!」

● 8月24日(土) 14:00～15:00 *先着200人
朗読/くすのき しげのり

○申し込み方法

はがき・FAX・メールのいずれかに「くすのきしげのり講演会」もしくは「くすのきしげのり読み聞かせ会」と明記の上、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入し、下記までお申し込みください。当館1階受付でも申し込みめます。

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1
県立文学書道館 FAX 088-625-7540
メールアドレス kotonoha@bungakushodo.jp



国内外で活動するイラストレーター・ふるしろう ようこが絵を担当した『ええところ』(2012年 学研プラス)



初めての絵本『もぐらのサンティ』(清宮 哲・絵 2002年 岩崎書店)

交通アクセス

■ JR徳島駅から

徒歩(約15分)

JR徳島駅西側のポツポ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つ目の信号を右折して約300m。徳島中学校東隣。

バス

徳島市営バス 7番乗り場「川内循環線(右回り)」に乗り、「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩で約5分。
徳島バス 2番乗り場「前川経由」に乗り。「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩で約5分。

タクシー・自動車(約5分)

国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m。

■ 高速道路から

徳島インターチェンジから車で約15分。

■ 駐車場

当館北側にあります(43台、大型バス2台)。

